





は自分から切り離された他者の心身の状況を共有することは不可能なのです。それが人間の認識の限界であり、ひとりで生まれ、そして一人で死んで行く人間の宿命でもあります。それゆえ、「老い」もまたそれが現実のものとなるまで人々が実感できないのは当然なのです。いまだ老いを知らない現役担当者の指導や助言の多くが役に立たないのはそのためでしょう。

筆者もまた自らが「老い」の領域に踏みこんではじめて、存在についても、老いについても「存在の個性」をより一層実感するようになりました。眼鏡

は3つも持っています。部分入れ歯の世話にもなりはじめました。腰も、膝もなだめなだめ使っています。階段には手摺を付けました。若い頃には想像も出来ない条件下で暮らしています。それゆえ、ますます生涯学習も生涯スポーツも必需品になったのです。今年は初めて熟年のための本を書く資格が整ったと実感しています。今度の本はこれから向老期に向かう人々のための未だ見ぬ人生の風景についての理論的地図でありたいと切に願っています。

## 「豊津寺子屋」に見る「子どもの居場所」の総合評価 —行政の評価、保護者の願い、女性の視点、子どもの思い—

### I 分析者の結論

以下は2005年豊津寺子屋2学期を終了するにあたって行政・学校／保護者／子どもの3者による活動評価の分析である。分析者の結論は次の通りである。

1 行政及び学校幹部による評価は基本的に思弁的であり、現場の実態を踏まえてのものではない。それゆえ、評価の大部分は主観的な印象に基づく「世論調査」の域を出ず、政策提言と言う意味では全く正確さに欠けている。事実、担当課長および町長以外はほとんど全く現場の事情を知らない。それでも各人の経験の範囲内で、推察と想像によって回答書を提出した人々の意識は変わり始めていると理解すべきであろう。彼らの意識が変われば、行政のあり方が変わる。なぜなら、終始一貫本事業を黙殺し、関心を持たず、協力もしなかった幹部は今や少数派になった。彼らは役場内担当者の丁重な懇願にもかかわらず調査票の提出すらしていない。

「寺子屋」はようやくロジャースのいわゆる「初期多数派」(全体の約34%)を獲得したに過ぎない。「抵抗勢力」はどこにでも存在するのである。

2 「豊津寺子屋」は複合課題に対する総合政策的処方である。目的は「子どもの居場所の確保」と「子どもの教育の補完」と「熟年の活力増進」と「女性の社会参画」と「コミュニティ・スクールの創造」と「財政難への対策」を含んでいる。それゆえ、役場内の連携、異分野間の共同が不可欠である。実行委員会との連携を含めて、最低限、首長の発想の中には「多部局協働」の政策意識はあったが、「縦割り」の壁を越えた実際上の協力はほとんど実現し

ていない。総合政策の実行を阻む最大の壁は行政の「縦割り」であり、それを保守する役人の固い「なわばり意識」である。かつて時代をリードし、システムや事業の革新を先駆した役人が、今や、変化の早さについて行けない時代に突入しているのである。特に、「放課後児童健全育成事業」と学校との関係を見る時、昨今、国の論議的になった「教育委員会の廃止」は実際に必要な時代になっているのである。

3 保護者は「正直」であり、「現実的」であり、時に「勝手」ですらある。夏休みに1日10時間、しかも100円で、「寺子屋」に子どもを放り投げて、自分達はやりたいことを自由にしているという批判がある。ものは言い様であるが、それで良いのである。子どもも育てたいし、男と同じように仕事もし、自由な活動もしたいのである。それが人間の常であり、消費者の選択である。保護者の「寺子屋」に対する評価はどの視点から見ても高い。社会が「養育」を引き受けるということは親がいなくても子が育つ仕組みだからである。結果的に、「寺子屋」は保護者の子育ての「手抜き」を助長している。男女共同参画の反対論者はその点を批判し、子育てとしつけは家庭の責任である、といい続けている。

しかし、女性の就労と男性と対等の社会貢献を奨励するのであれば、家庭の最大の責務である子育てはその大部分を社会が引き受けなければならない。まして、女性にもっと子どもを生むことを要請

し、「少子化」を止めなければならないと訴えるのであれば、「養育の社会化」政策は必然である。寺子屋に対する保護者、特に母親の圧倒的な支持は女性が「正直に」、「現実的に」、時には、「わがままな自由」を行使するために「養育の社会化」を支持しているということである。

4 多様な先生方の慈しみと指導の中で子どもは健やかに育っている

多様な先生方の慈しみと指導の中で子どもは健やかに育っている。子どもは「寺子屋」を楽しみに待っている。子どもは沢山のことを体得し、これまで「できなかったこと」が「できるようになっている」。子どもは体得した事柄を保護者にとくとくと報告している。結果的に、親子の会話も相互理解も深まっている。指導の基本を間違えない限り、「寺子屋」を通して、子どもの体力も耐性も向上する。それがあらゆる「学び」の土台であり、基礎である。

先生方と保護者の交流も少しずつ深化している。日本文化は礼儀正しい。保護者は必ず指導者に御礼と感謝を忘れない。そこから熟年指導者との交流の機会も、さらには熟年指導者の活力も生まれて行く。

\*（註） 行政及び学校幹部による評価は大部分の回答者が「寺子屋」の現場すら見たこともないので省略する。

## II 保護者による評価 「寺子屋」は役立っているか？

2年目の実践に入って寺子屋は本格的に保護者の評価を問うた。以下はその要約と分析である。結論は「寺子屋」は何としても存続すべきである、というところに落ち着いた。それぞれの家族は様々な問題に当面している。それゆえ、様々な意識と視点で寺子屋を見ている。しかし、視点や意識の相違にかかわらず、寺子屋への評価は予想以上に高かった。子育て支援の「モデル」として、教育の視点からも、保育の視点からも、家族や地域の人間交流の視点からも、子どもの幸せや楽しみの視点からも、安全や就労支援の視点からも合格であった。

### 1 様々な子どもへの期待、それぞれの心配

親の希望も、親の気掛かりも現象的にはさまざまである。しかし、基本となる「根っ子」は共通している。共通項は「体力」と「耐性」である。寺子屋の教育効果のアンケート調査にそれがはっきりと現れ

た。

#### (1) 診断も処方も間違っていない

現代の子どもは心身ともに「へなへな」である。子宝の風土の家庭は基本的に「過保護」であり、学

校は「へなへな」の子どもに適切に対処できていない。「体力」と「耐性」を重視し、その上で社会生活の基本を「体得」させようとしている寺子屋の指導方針は間違っていない。カギは「行動耐性」と「欲求不満耐性」の二つである。

(2) 保護者の評価は、圧倒的に「体力」、「がまん強さ」、「意欲・積極性」の向上に集中している。集団生活への適応も、表現力も、友だち付き合いも、思いやりもすべて体力、気力、がまん強さを土台にして成り立っているのだから当然であろう。

### (3) 調査結果の要約

- \*『辛い条件に耐えてがまん強くなった』
- \*『泣き虫癖』がなくなった
- \*『多様な視点で集団生活に慣れ始めている』
- \*『思いやりとがまん』の両方を獲得
- \*『体力』の向上
- \*『病気をしなくなった』
- \*『お友達が出来て、積極的になった』
- \*『集中できるようになった』
- \*『あきらめない意欲が出てきた』
- \*『チャレンジ精神が身についた』
- \*『表現力が上がっている』
- \*『よく食べ、よく眠り、体力が付き、病院へ行かなくなった』
- \*『最大の変化は集中力と意欲』
- \*『食欲、半袖、風邪も引かない』
- \*『上級生はリーダーになって自信がついた』

## 2 子ども達の楽しみは「機能快」と「交流」

### (1) 子どもの圧倒的な楽しみは「機能快」である

保護者はほとんど異口同音に子どもが「できるようになったこと」を家庭で報告すると指摘している。『機能快』とはできる喜びである。「出来ないことが出来るようになる」、「少しか出来なかったことが上手に出来るようになる」、「やったことのないことをしてみた」、「知らなかったことを親に話して聞かせることが出来るようになる」。これらはすべて子どもの機能快である。子どもは縄跳びが出来るようになり、俳句カルタを空で全部言えるようになり、英語も少しは言えるようになり、自分のハンケチを染め

上げ、わら細工の飾りを褒められ、花を分け、学校の外の友だちが知らないことも知っているのは機能快である。これらは楽しいことであり、喜びであり、誇りであり、自信である。だから毎日親に話して聞かせるのである。結果的に家族の交流も、コミュニケーションも格段に深化している筈である。言葉も使えるようになって行くはずである。そして子どもの進化を保護者が認めて褒めてくれれば更に子どもの意欲と自信は深まる筈である。『機能快』こそが「体得」の最大の贈り物である。それらは言葉や理屈では達成できない。ひたすら身をもって体験し、自ら反復練習を繰り返さなければならない。『学校では習えないことを習っている』という保護者の感想は間違っていないのである。

### (2) 子どもの副次的な喜びは友だち付き合いの深化である

寺子屋では、子ども達が「体得」の指導を通して「同じ釜の飯」を食っている。1年から6年までの異年齢集団の活動であるため、体得の足並みは揃わない。下級生は背伸びをしてがんばる。上級生は足踏みをして待っている場合も多い。その間、お互いがお互いを支えあっている。そこから友だちの付き合いが深まって行くのである。子ども達は保護者に「寺子屋」の友だちの事を沢山語っている。“近所”を越えて他の地区の子どもとも親しくなっている。年下の子どもの面倒もよく見るようになる。『外で出会っても〇〇ちゃんと呼び合っとうれしそうである』。とにかく「寺子屋」は「たのしい」のである。

### (3) 調査結果の要約

- \*『「記憶力」のすばらしさはおどろきです』
- \*『子どもは寺子屋で習ったことを実践しています』
- \*『仲間はみんな良い関係のようですね。他の子どももっと寺子屋に参加すればいじめなんかなくなるのに…。』
- \*『友だちと協力してやりとげている』
- \*『異学年のお友達が出来た。外であった時に呼び合うので分ります』
- \*『寺子屋に慣れて楽しいようです』
- \*『低学年の子どもに手を貸している』
- \*『年下の子どもともよく遊ぶようになった』

- \*『お友達と外で遊ぶ』
- \*『他人との関わり方をそれなりにこなしている』
- \*『人を気づかうことができるようになった』
- \*『友だちにやさしくできる』

### 3 家族は「安心」と「自由」を、女性は「就労の可能性」を獲得した

女性政策の視点から見た寺子屋の意義は、「育児支援機能」と「就労支援機能」に2分される。

#### (1) 寺子屋がなければ、離職か、転職か、転居を選ばねばならない

寺子屋は「養育の社会化」を目指している。学童期の育児と教育を社会が引き受けるという意味である。したがって、寺子屋の機能を「保教育」と呼んだ。保育も教育も同時に行なうという意味である。学童期の子どもを家に残して仕事には行けない。子育て支援が「教育」しか出来ないのでは親は家を空けることは出来ない。もちろん、子どもが健やかに成長を続けていなければ、保護者は何も手につかない。現代の保育には成長と発達の保障は出来ない。それゆえ、学童保育のように子どもを預かるだけでは親の安心は確立できない。子どもの安全と健全育成が同時に達成された時、はじめて女性の就労が可能になるのである。

#### (2) 放課後も、休暇中も、元気に成長している子どもを見れば「安心」である

教科教育は学校に任せるとして、社会生活の予行演習は今の家庭にも、学校にもほとんど出来ない。子どもの心身が「へなへな」なのはそのためである。寺子屋は「保教育」の中身と方法を変革して、保護者の「安心」と「自由」を保障している。子どもは楽しく友だちと遊び、心身の力と気合いとがまん強さを鍛えている。意欲も、集中も、思いやりも、協力も出来るようになって行く。子育ての役割が女性に集中している現状は不幸であるが事実は事実である。それゆえ、寺子屋のプログラムは女性の働く時間に合わせている。そこから女性の就労が可能になるのである。

#### (3) 調査結果の要約

- \*『家族は寺子屋を通して様々な人々に出会っている』
- \*『子どもは集団生活に適応している』
- \*『元気で、やる気で丈夫になっている』
- \*『家事の時間が十分にとれる』
- \*『めだって子どもが成長している』
- \*『ひとりで留守番はさせられない』
- \*『通学路ですら危険な世の中になった』
- \*『仕事を持っている女も安心できる』
- \*『自分が不在の時でも子どもは学び、成長する』
- \*『子どもだけを家にはおけない』
- \*『集団の中で生きてゆけるようになった』
- \*『多くの子どもの味方に囲まれて子どもは安全です』
- \*『安心しているのは女性だけではないのです』
- \*『寺子屋は子どもの安全、地域でも多くの先生を持つようになり安全性が一段と増した』
- \*『助かっています。ないと困ります。』
- \*『家族の付き合いも広がっています』
- \*『子どもも安心、仕事安心』
- \*『寺子屋がなかったら引越すところでした』
- \*『土曜日は保育園の「学童」を利用しています』
- \*『安心と安全、育児を助けてもらっています』
- \*『きょうだいがいない子どもには大事です』
- \*『おかげで仕事が出来ます』
- \*『寺子屋がなければ辞職か、転職です』
- \*『寺子屋にいるというだけで安心』
- \*『お迎えに行くまで待っていることが安全の保障です』

### 4 「有志指導者」への「感謝と共感と賞讃」

保護者は「学校で教わらないことを教えてもらう」と書いている。「親が出来ないこと」も教えていただいている、と書いている。「指導の巾が広いこと」に感心している。有志指導者の一生懸命な指導に頭が下がると御礼と感謝の言葉が並んでいる。「叱るべき時は叱って」と価値の指導を願っている。何より子どもがなついて、喜んでいる。

### 5 様々な存続理由

住民の声を政治は果たして何と聞くか？ 拠点施

設の学校は何と聞か？そして指導にあたった「有志指導者」は何と聞くであろうか？

- \*『安全』と『人間としての経験』の視点から存続すべきである』
- \*『体験の継続は現代の教育にはない』
- \*『異年齢、異学年との交流はない』
- \*『料金を上げてでも存続して』
- \*『共働きと子どもの安全を考えて！』
- \*『子どもはいろいろな経験が出来て幸せ』
- \*『核家族化が進むなかで世代間の伝達は重要』
- \*『なにより子どもが気に入っている』
- \*『家族のコミュニケーションも、地域のコミュニケ

ーションも、安全も、子どもの楽しみも切らないで！』

- \*『寺子屋を通して子どもは地域につながっています』
- \*『仕事のためにも、子どものためにも大事です』
- \*『共働きの実態に対処し、子どもの安全、教育の向上のためにも是非！』
- \*『他市町の人は「羨ましい」といっています』
- \*『なくなったら大変困ります』
- \*『横のつながりができる、安心して働ける』
- \*『学童とは違い、子どもの体験の質が豊富です』
- \*『なんども”たのしい”というのです』

### Ⅲ 子どもによる評価

「がんばったこと」もある、「できるようになったこと」もある、「友だちも増えた」、寺子屋は「楽しくて、うれしい」。

#### 1 「頑張ったこと」は中々一つに絞れない

子どもの意見、特に下級生が調査票に答えるのは主として「単語」のみである。叙述や説明はほとんどない。分析者が想像力を働かせねばならない。問1は「一番頑張ったこと」を「一つだけ」書いてみて、と頼んだ。

##### (1) 頑張ったことは分散している

俳句を頑張った人もいる。ロープワークを頑張った子どももいる。もちろん、今回導入した「英語」や「論語かるた」や「雨にも負けずの手話」を頑張った子どももいる。

##### (2) 「頑張ったこと」は中々一つに絞れない

「ひとつだけ」と書いてあっても沢山の頑張ったことが列挙してある。「ひとつだけ」の文意を見落とした場合もあるだろうが、正直、色々頑張ったので、中々一つに絞れないということもあるだろう。二つ以上書いた子どもが沢山いた。

#### 2 驚くべき「吸収力」

問2は新たに「できるようになったこと」を尋ねている。答の大部分は新規に導入したプログラムに集中している。もちろん、「できるようになったこと」は、問6で尋ねた「お父さん、お母さんに自慢できること」と重なっている。

まさに驚くべきは、子どもの驚くべき「吸収力」である。子ども達が新たに「できるようになったこと」は回答数の順に並べると以下ようになる。

- (1) 「論語カルタ」
- (2) 「雨にも負けず」の英訳の暗唱
- (3) 同上 の手話
- (4) お手玉作り、においぶくろ(ぬいもの)
- (5) ロープワーク
- (6) なわとび／大縄跳び  
(うしろとび、あやとびなど、また、回数も特記して進歩の度合いを誇っている)
- (7) お手紙書き
- (8) ドッジビー(ドッジボールとフリスビーを組み合わせたあそび)

その他変わったところでは「モップ掛け」ができるようになったり、「友だちが沢山できた」というもの

もあった。

### 3 「楽しかったこと」は？

問3は楽しかったことを尋ねた。沢山の答が並んだ。子どもの楽しみはプログラムを作る。寺子屋の「命」はプログラムである。教育力の具体的条件もプログラムである。

- (1) 「みんなでやったこと」、「みんなであそんだこと」・「トランプ、かるた、むかしあそび」、「フットサル」、「ドッチビー」
- (2) 初めての体験・「いもほり」、「料理」
- (3) 自分の作品が残ったこと・「ぬいもの」、「紙てっぽう」
- (4) 「楽しかったこと」は「できるようになったこと」・「なわとび」、「お手玉」、「おりがみ」

### 4 「むずかしかったこと」は新しい挑戦

(1) 「難しかったこと」の代表は「英語」である。難しかったことは圧倒的に「英語」であった。実行委員会が子ども達に課した新しい挑戦は英語である。子どもは音も、語も、意味も、実際に英語を話す人も知らない。難しいのは当然であろう。しかし、誉めてもらいたい一心で挑戦しているのである。

(2) 「むずかしいこと」の2番目以下は各種プログラムに分散した。それぞれの苦手種目が選ばれたようである。たとえば、「なわとび」、「手話」、「におい袋」、「ロープワーク」等が続いている。当然、学年によって「たのしいこと」も「むずかしいこと」もちがってくる。

### 5 「ほめられたこと」も「しかられたこと」も覚えている

問5は「ほめられたこと」と「しかられたこと」を尋ねている。子ども達はどちらもはっきりと覚えていてきちんと答えている。

#### (1) 「嬉しかったこと」は「覚えている」

子どもは正直である。褒められて嬉しかったことは覚えている。先生方にとってはご自分が指導した

結果が子どもに現れれば当然嬉しいことであろう。それゆえ、「誉め易い」のも「できるようになったこと」である。かくして、子どもの上達が賞讃の対象になるのは当然の結果であった。しかも、寺子屋はプログラムが多様である。その分だけ、子ども達が「ほめられたこと」も千差万別である。

先生方は毎日交替される。それゆえ、プログラムも「日替わり」である。それぞれの先生方は、期せずして、多様な視点、複眼の視点で子どもを見て下さる結果になっている。多くの指導者がそれぞれの領域ごとに、それぞれに頑張って上達した子どもを誉めて下さっている。「できるようになったこと」に焦点をあてれば、誰もがどこかで誉めてもらっているに違いない。「褒められたこと」の「千差万別」はそこから来ている。寺子屋の最大の強みは沢山の教師陣であり、様々な評価尺度が同時に存在していることである。もちろん、稀にはあるが、「責任の遂行」、「義務の履行」についてなど、子どもの責任感、協調性、積極性、心配りなど規範や道徳性の観点から注目して誉めていただいている場合もあり、子どもは胸を張って特記している。

#### (2) 最大の「叱られ項目」は「私語」である

一方、「叱られたこと」は主として「私語」であり、「さぼり」であり、「ルール違反」である。子どもの集中力、持続力はまだまだである。子どもは「叱られたこと」をしっかりと記憶している。子どもの記憶を通して、先生方のご指導は、寺子屋における規範の確立や基本的生活習慣のトレーニングとして確かに機能している。

### 6 家族に「自慢」できるものは「上達」の証拠である

問6は「お父さん、お母さんに自慢できるものはなんですか？」と尋ねている。

#### (1) 自慢できるものは上達の結果である。

具体的には「雨にも負けずを早く暗唱できた」、「縄跳び」、「お手玉」、「ロープワーク」、「手話」、「読み聞かせ」、「論語カルタ」、「折り紙」等と続く。子どもの楽しみも、達成感も「機能快」の結果である。それゆえ、「できるようになったこと」と「楽しかったこ

と「自慢できること」は多くの項目において一致している。

## (2) 先生方の「観点」が子どもの誇りに直結している

珍しかったのは「後かたづけをきちんとやった」、「静かに宿題をやった」などというのがあった。どこかで先生方に誉めていただいたに違いない。先生方の指導の「観点」が間違いなく子どもの誇りに直結しているのである。

## 7 先生方への「たより」は未だ書けない

問の7は「先生方にお便りを書きましょう」である。当日、ついていた「寺子屋主事」あるいは先生のご指導があったのであろうか？文面の大部分は御礼の文言であった。もっと自由に書かせてみたいものだが子ども自身の頭の中に「御礼をいわなければ・・・」という枠があるのであろう。それはそれで礼儀正しいことであるが、「型通り」の「紋切り型」で面白くない。

### (1) 御礼は「型」にはまって、紋切り型である

本文は「いろいろおしえてくれてありがとう」で

あった。「教えてもらった」中身は沢山のプログラムに分かれる。調査票の記入の際に若干のオリエンテーションが行なわれるとこのような回答になるのであろう。

### (2) 寺子屋の先生が好きなのである

寺子屋は楽しい、寺子屋の先生が「好き」だとあった。「褒められたこと」は忘れられない。先生方を励ますことも忘れてはいない。

与えられた課題が「できるようになりました」と報告をしている便りもあった。

### (3) 世代間交流の芽

「身体に気をつけて！」、「病気にしないで頑張て」と「指導者の年齢を自覚した」たよりがあった。先生のお名前を書いて御礼を言っているものもあった。勤のいい子どもは「世代間交流」の意味を分っている。

(註2)それぞれの評価票はすでに紙上で紹介しているので省略している

(註3)「有志指導者」の評価は2006年1月に「意見交換会」を兼ねてお伺いする予定である。

## ■ お知らせ1 ■ :更新手続きご案内

### 「風の便り」2006年号の登録について（第3回）

2005年最後のご案内です。多くの方々のご支援のおかげで、来年も「便り」の購読料は無料で続ける事ができます。引き続き購読をご希望の方は2006年分の郵送料または90円切手12枚を同封の上事務局までお送り下さい。先月号とともにメッセージカードを同封しましたので、送付先の変更、ご意見、感想などございましたら、ご自由にお寄せ下さい。ご承知とは存じますが、アメリカの藤本 徹さんのお力添えで定例の生涯学習フォーラム「参加論文」と「風の便り」を共にオンライン化しております。末尾にホームページのアドレスも記してあります。合せて御利用下さい。

# 「人生の時差」—16年前の教育論

## 思いがけないお便り

知人のYさんから思いがけないお便りが届いた。書いた本人も忘れていた16年前の教育小論を読んでもくださった感想を綴って下さったのである。当の小論はある病院の機関紙に乞われて寄稿したものであった。すでに手元に原稿のオリジナルは存在しない。かくしてYさんが引用して下さった部分だけが残っている。

私は高校時代の「やまねこ」というあだ名の漢文の先生を思い出して一文を書いたらしい。にこりともしない先生であったと記憶している。”教科書にあるのは、歴史上の天才が書いた名文である。若年のお前たちが分らなくても無理はない。まずは頭から憶えておけ”という趣旨のことを言われたことを覚えている。試験は教材を暗記していなければ解けないような問題であった。結果的に猛勉強をした私は今でもこれらの資料を憶えているのである。以下はYさんがお便りのなかで要約して下さったまとめの引用である。

『高校の頃漢文を教わり、中身には興味を覚えなかったし、意味も分からなかったものの、無理矢理音読させられ、試験のためには暗記もした。いわば無理矢理「つめこんだ」ものだが、今になってみると、そのとき覚えた漢文の内容を実感できるような場面に多く遭遇する。人生にはその時がこない、決してわからないことが多い。いわば「人生の時差」でもいおうか。教育には適時性というものがあり、暗記や苦行に耐えられる若い人には、わからないことを承知で教えるべきではない。その時がきたときでは遅すぎるのである。教育には「その時がこなければわからなかった人々」の苦い経験と後悔が含まれているのだ。』

Yさんの感想は以下のように続く。

『私がまさしくに共感した部分は、「人生の時差」と、「教育には(その時がこなければわからなかった人々)の苦い経験と後悔が含まれているのだ。」という言葉です。だいぶ趣は異なりますが、私の専門分野の工学の話をするすると、私も同じような経験をしております。でも、工学の場合、あなたのいわれるようなしつとりとした「人生の時差」とは、多少意味合いが違うかもしれません。「時差」がきわめて短いのです。

たとえば、高校時代に習う「ニュートンの第二法則」、つまり  $F = \alpha M$  の式を自在に応用できない人は、トヨタとか三菱重工といった会社に入ったその日から、苦勞の連続でしょう。でもその重要性を習ったその時から理解している人は皆無でしょう。

私は大学に入ってから、さらに高度な式をたくさん教わったはずですが、「こんなもの実際の設計ではくその役にも立つまい」と、麻雀や酒にうつつを抜かしておりました。でも人並みに日立や三菱重工へ就職するつもりでいたのです。身の程知らずにも、タービンの設計や飛行機設計にあこがれていたのです。

卒業の年、親友が大学院進学を決めたので、私もと思い指導教官に申し出ると、「君は成績が悪いから、入学試験を受けてもらおう」と宣告されました。何とか試験に受かった私は、さらに難しい式を習う羽目になりました。でも猛勉強の末、トップクラスで卒業できたのですが、同時に工学の難しさをいやというほど理解したのです。「自分には設計は向かない」あるいは「こんな苦勞をするよりは遊んで暮らせる方がよい。」と考えた私は、工学とはおよそ無縁の鉄鋼業界に身を投じました。

案の定、会社では難しい式など知らなくても仕事は十分やっていたし、 $F = \alpha M$  の意味なんて知

らない人でも所長になれる世界でした。その点は有り難かったのですが、「設計者になりたい」という夢を捨ててしまったことを、かなり長いこと自嘲しておりました。今世間では、「その後の人生に役に立たない数学をなぜ勉強しなければならないのだ」とまじめに口にする教育評論家がテレビで大きな顔をしてしゃべっております。私はその都度、「数学がわからなけりや、テレビも自動車も新幹線も作れないんだぞ」と叫びます。私は息子に「勉強しなさい」と言ったことはほとんどありませんが、一度だけしつこくお説教したことがあります。医学部に入った息子が、全然勉強をしていないようだと言ったので、当時遠くに単身赴任していた私はかなり長い手紙を息子に送りました。

曰く、勉強しなければ立派な専門家にはなれない。  
曰く、勉強しなければ私のように夢を捨てることになる。

よけいなお節介でしたが、それこそ、その時にならないとわからなかった人の苦勞と後悔のほどを知らせようと努めたのです。息子には全く通じなかったようですが、今に「時差」が解ける日が来るでしょう。

あなたの書かれた教育論には、実は続きがあることも知りました。病院が二編に分けてニュースレターに載せていたのです。』

後編にはこうあります。

『人は好きなものは一生懸命やる。でもそれだけではない、一生懸命やれば好きになるのも真である。何が大切か何もわからない若者にしっかりと基礎(型)を教え込むのは、大人の義務である。詰め込みのどこが悪いのか。すべて人の世のことは「その時」がこななければ本当のことはわからないが、同時にその時がきたときではもう遅いのである。基礎学力も体力も気力も礼儀も作法も、彼らの将来のためにきちんと「詰め込んで」やるべきである。果たして賛成いただけるだろうか。』

『まさに凶星。賛成していただけるどころが、諸手をあげて大賛成。私の人生の実感そのものです。

私の嫌いな言葉に、「子供の目線にあわせて、等身大の教育をしたい」だの、「遊びながら学ぶ英語」、「楽しみながら学ぶ数学」だのというのがあります。こうした言葉を聞いた日は一日中不愉快でたまりません。』

この世に同志はいるものである。16年前の教育小論は、近年関わってきた吉岐の島の霞翠小学校の実践や「豊津寺子屋」の指導法に続いている。いささか元気を取り戻して長崎県校長会の講演に挑戦したい。

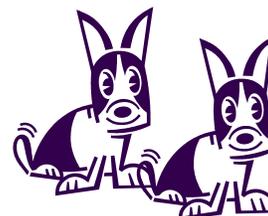


## ■ ■ お知らせ2 ■ ■

### 第63回生涯学習フォーラム

- ◆ 日時：平成17年1月21日(土)15時～17時  
研究会終了後、センターレストラン「そよかぜ」にて夕食会を予定しています。どうぞご参加ください。
- ◆ 場所：福岡県立社会教育総合センター
- ◆ 事例発表：1 「スローフード和(のどか)」(山口県 白木美和)  
2 熟年の地域帰還 (交渉中)
- ◆ 論文発表：2007年問題1：熟年の危機と生涯学習(三浦清一郎)

会場その他準備の関係上、事前参加申込みをお願い致します。(担当：恵良)  
電話連絡先 092-947-3511まで。



## 第62回フォーラムレポート



# 構想力の勝利



ことは「子育て支援」に限ったことではないが、プログラムの成否は担当者の「構想力」の問題に帰する。したがって、社会教育事業に見るべき事業が少ないのは構想力の貧困の問題である。すべての行政プログラムに知恵がないとまでは言わないとしても、「意欲」、「気力」に欠けることは昨今の状況から明らかであろう。既存の事業や施設管理を「指定管理者」に丸投げすることは危険だとしても、住民の中には、遥かに行政をしのぐ、多くの知恵と積極的な意欲と、挑戦の気力があることは実践の中から垣間見ることができる。今回のご報告は久留米市の子育て交流プラザ「くるるん」の岡部美貴さんと「熊本県阿蘇郡産山村の『子どもヘルパー事業』」を取り上げた九州女子短期大学の島田まなさんをお願いした。論文発表は別記事の通り、「豊津寺子屋」事業を行政、保護者、子どもの視点でそれぞれに評価した「子どもの居場所の総合評価」(三浦清一郎)である。

### \* I \* 久留米市子育て交流プラザ「くるるん」事業 \* \* \* \* \*

#### 1 「くるるん」とは? \* \* \* \* \*

平成14年10月、久留米市が子育て交流プラザくるるんを開設するにあたり、施設で活動する「子育て支援ボランティア」を養成する。受講したボランティア会員により結成された団体で、現在、20~70才まで

70名の会員を擁している。平成17年4月から施設の運営を久留米市より委託され、母親の自立を目標とした子育て支援活動を行っている。

#### 2 「くるるん」レポート \* \* \* \* \*

岡部美貴さんは7才と9才の2児の母である。子育てが面白くて、出産後に保育士の資格を取得し、現在では、久留米市の「子育て交流プラザくるるん」の運営を委託されスタッフとして奮闘している。いただいた資料によれば、「くるるん通信」はすでに39号を発刊している。「風の便り」の編集に携わっている筆者としては、担当者の「意欲」と「気力」は通信を見ればおおよその判断はできる。プログラムの中身も豊富で変化に富んでいる。「音楽のひろば」があり、「エアロビ」があり、「子育てホットライン」があり、「親子の英語サー

クル」もある。「おしゃべりサロン」は住民に開かれており、託児もサービスもついている。その他、定例の「ふれあいベビーマッサージ」や「くるるん広場」には季節季節の小さなプログラムが付加されている。「子育てセミナー」や「母子健康相談」など現代の子育てに不可欠の学習機能も併設している。住民が住民に呼び掛ける「子育て支援ボランティア養成講座」も続いている。施設の開館時間は午前10時から午後6時までである。行政職員はフルタイムの高い給料を取っているが、とてもここまではやれないであろう。

### 3 「くるるん」情報 \*\*\*\*\*

- (1) 住所: 〒830-0033  
久留米市天神町8番地リベール5階
- (2) 電話: 0942-34-5571
- (3) E-mail: [kururun@ktam.or.jp](mailto:kururun@ktam.or.jp)

- (4) ホームページ  
<http://www3.city.kurume.fukuoka.jp/kurume-child/html/pre07-1.htm>

## \* II \* 「一人前」の予行演習—ふるさと貢献に挑戦する「子どもヘルパー」事業 \*

### 1 子宝の風土は「子縁」の風土 \*\*\*\*\*

子宝の風土では子どもが一番大事である。それゆえ、子どもが変われば地域が変わる、子どもの「守役」たるべき学校が変われば地域の間人間関係が変わる。子宝の風土は「子縁」の風土だからである。戦後教育の悲劇と滑稽さはこの事実学校だけが気付かなかったことである。

子どもヘルパー事業は子どもの活躍が地域も地域の間人間関係も変えることになった。本事業もまた構想力の勝利である。構想力は福祉部門と村長のリーダーシップによって支えられた。学校が全面的に協力したことによって「構想」の意味は倍加したのである。

### 2 事業の趣旨・内容 \*\*\*\*\*

子どもたちが、自分が生活している地域の地域にもっと目を向け、在宅の高齢者や障害者の生活や福祉問題を理解し、地域の一員として福祉活動に協力する機会を作り出そうという事業である。具体的には、小学校4年生以上の子どもたちが「子どもヘルパー」とし

て地域の高齢者・障害者宅を訪問し、高いところの窓拭きや庭の草取り、室内の掃除など、相手の要望に応じて手助けを行う活動が中心である。学校が変われば地域が変わる実例である。以下は分析者の事業評価の要約である。

### 3 子どもヘルパー事業の意義と背景 \*\*\*\*\*

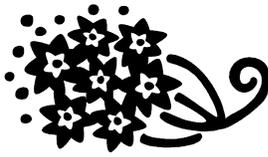
- (1) 子どもが地域社会に貢献するボランティア活動である。
- (2) 福祉と教育との連携・協力事業である福祉領域の部署が主管であるが、学校や社会教育関係団体に働きかけ、村内関係部局がうまく連携している。
- (3) 事業は学校のカリキュラムに組み込まれている。

- (4) 長期に渡る継続的な体験活動プログラムである。
- (5) 小学校4年生から中学校3年まで継続して同じ高齢者世帯と交流する活動である。
- (6) 地域の世代間交流を促進する結果をもたらしている。
- (7) 子どもにとっても、高齢者にとっても交流と教育の価値がある。

\*\*\*\*\*

## ■■■ お知らせ 3 ■■■:事務局住所が変わりました

新住所: 〒811-4177 宗像市桜美台29-2  
三浦清一郎事務所



# MESSAGE TO AND FROM

更新にあたり沢山のメッセージならびに過分の郵送料をありがとうございました。今回もまたいつものように編集者の思いが広がるままに、お便りの御紹介と御返事を兼ねた通信に致しました。みなさまの意に添わないところがございましたらどうぞ御寛容にお許し下さい。

## ★ 長崎県壱岐市 霞翠小学校の先生方

懐かしい再会でした。モデル事業を見事に継続されている様子にも感服いたしました。文教委員会の視察があり、質問攻めであったということも、さもありなん、とお聞きしました。それでもなお人が変われば少しずつ心理的風土が変わって行くことでしょう。事業を切り開いてきた皆さんの”違和感”を一種感慨を持ってお聞きいたしました。校長先生が最後の「戦友会」と呼んだこともむべなるかなの思いです。

## ★ 福岡県宗像市 市津順子 様

「ユリックス神社」のプールで待っています。新年の決断をもってどうぞ復帰して下さい。編集後記にも書きました通り、十日間サボったらなんとも無惨な筋肉・関節の硬直化が起りました。勉強を怠ければすぐに脳味噌の硬直化が起ることでしょう。鳥も、けものも、もちろん人間も、「体力」が尽きた時生存が終了します。生きる力の第1条件は疑いなく体力でしょう。お忙しいのですが、日々怠りなく手入れを続けるしかソフトランディングの方法はないようです。

## ★ 福岡市 大石正人 様

いつも陰ながら大先輩の精力的な活動に注目いたしております。如何にすれば先輩のお年になっても今のような活動が持続できるのでしょうか？フォーラムに欠かさず出席され、遠い壱岐の学校の実践を視察され、今回は豊津寺子屋を見ていただきました。ご出席に一同どれほど励まされているか、感謝の思いをお伝えいたしたく紙上を借りて御礼申し上げます。1年間のおつき合いありがとうございました。

ました。

## ★ 福岡県八女市 杉山信行 様

NPO の時代が来ますね。図書館の運営をお引き受けになったら是非見学させていただきたいものです。従来の社会教育関係団体は行政に物心両面で依存した分だけ、時代の変化が見えず、ほとんど全く時代の要請に応えることができていません。青年団が滅び、婦人会がやがて滅び、子ども会も少子化を理由に消滅することでしょう。次は PTA でしょうか？代わりに登場するのが市民の自由意志による多様な NPO 活動ですね。福岡県も NPO と行政・企業との「協働」に関する「基本指針」を策定しました。しかも、担当は生活労働部の生活文化課です。教育委員会が廃止されるのも時間の問題になったといって過言ではないでしょう。教育委員会もまた変化の時代に機能せず、学校の改革は遅々として進まず、子育て支援の意義はまったく分っていない、時代の役目を終ったのです。

## ★ 広島県安芸高田市 久川伸介 様

お元気なお便りに接し嬉しいことでした。今回、長崎県各地の校長会の連続講演を引き受け、学校の「守役」機能を強調し、「型」の指導の重要性を提案し続けました。多くの校長さんの反発を買いましたが、少数のお元気な校長さんの共感を得たと確信しております。「子宝の風土」であるからこそ「守役」による鍛練が重要であることは、規範の確立していない現代の中学生をご指導する中で実感されているのではないのでしょうか？

★ 宮崎県宮崎市 飛田 洋 様

お便りに接し申し上げるべき言葉もなく、ただ感慨無量です。先生と問答をくり返しながら「風の便り」を書き始めた頃を鮮明に憶えています。助けていただいた頃、小生は「自由の刑務所」に服役中でした。あれから6年それぞれに思いがけぬことが

起るものでございます。心中お察し申し上げます。小生の身にも様々なことが起りました。ひたすら前だけを向いて生きようと努めております。いずれどこかで縁が巡って来るでしょう。再会を楽しみにしております。

**過分の郵送料をありがとうございました。大切にに使わせていただきます。**

- |                 |                  |                 |
|-----------------|------------------|-----------------|
| ★山口県光市 吉岡 統 様   | ★福岡市 中嶋正信 様      | ★福岡県宗像市 市津順子 様  |
| ★熊本県植木町 吉里 力 様  | ★福岡市 小久井明京美様     | ★山口市 西山香代子 様    |
| ★埼玉県八潮市 松澤利行 様  | ★京都府亀岡市 山下ひろ子様   | ★北九州市 古川雅子 様    |
| ★福岡県前原市 小迫田幸子 様 | ★北九州市 小中倫子 様     | ★島根県出雲市 浜田満明 様  |
| ★高知県野市町 小松義徳 様  | ★福岡県嘉穂町 實藤美智子 様  | ★山口県田布施町 三瓶晴美 様 |
| ★埼玉県越谷市 小河原政子 様 | ★福岡県宗像市 赤岩喜代子 様  | ★宮崎県宮崎市 飛田 洋 様  |
| ★長崎県佐世保市 西野寿弥 様 | ★山口県長門市 藤田千勢 様   | ★熊本県熊本市 林田興文 様  |
| ★福岡県矢部村 松尾重根 様  | ★広島県安芸高田市 久川伸介 様 | ★福岡県八女市 杉山信行 様  |
| ★福岡県太宰府市 大石正人 様 | ★福岡県稲築町 永水正博 様   |                 |

## ★★★ 編集後記 少年の弾力性 ★★★

### 「型」を知れば、子どもの「想像力・創造力」が動き出す

少年の驚くべき吸収力、その学習範囲及び学習量の弾力性については「豊津寺子屋」の「子ども評価」の分析に示した通りである。寺子屋が教えたのはこの世に必要な「型」である。あいさつの仕方から言葉使いまで、掃除の仕方から直立の姿勢まで子どもの学ぶべき基本型は山積している。驚くべきことに、論語であろうと、手話であろうと、英語であろうと、歌であろうと、踊りであろうと、折り紙であろうと、裁縫であろうと子どもはあっという間に基本型を学んで、吸収する。そして「できるようになること」が嬉しいのである。それが「機能快」:「できるようになることの喜び」である。

少年期は、教育の適時性、指導のレディネスに満ちている。特に低学年の児童は毎日が Teachable Moment (教えるべき瞬間)の連続である。この時期の子どもに「教えないこと」は明らかに「罪」である。この時期に大事なことを教えてもらえないことの悲劇を考えてみれば分るだろう。

子ども達の驚くべき創造性は、発表会当日に中央公民館大ホールの壁に張り出された各種多様な作品がその証拠であった。折り紙や絵画の結果を文章で表すことは難しいが、筆者は子ども達の俳句に感歎した。彼らはすでに俳句いろはカルタも、父母や故郷についての古今の名句も諳んじている。それゆえ、元歌のモデルを「型どおり」になぞる「本歌取り」ならぬ、「本句取り」は当然予想できることだが、以下は決して「型通り」の真似ではない。ひとたび「型」を知れば、子どもの「想像力・創造力」が動き出すのである。

季語がないとか、5-7-5の型を踏んでいないとか、色々意見はあるだろうが、自由律俳句だと思って読めば、ここには未来の尾崎放哉や種田山頭火がいるのである。寺子屋の教室で子どもの心が捉えた季節の名句である。

- \* おちばはく 学校のにわの 女の子
- \* さざんかの ひとひらづつに まい落ちる
- \* きくちりな、かみのけ長くなるんだね
- \* えんぴつを たたいてはいくをかながえる
- \* やつでは かさにするにはちようどいい
- \* あきははっぱに魔法をかける
- \* いちようのは ちってゆくほど さむくなる
- \* あおぞらは ゆうがたになると オレンジだ
- \* せんせいが たとうとしたら むしのこえ
- \* はなびらを めいてうらなう すき、きらい

- (豊津小1年 まつしま なおき)
- (豊津小2年 中村 あかり)
- (豊津小1年 みぞぶち ゆめみ)
- (豊津小1年 ながの みちと)
- (祓郷小2年 竹本 み月)
- (祓郷小3年石田 しおり)
- (祓郷小3年柴村 れい)
- (豊津小2年ふじい じゅん)
- (豊津小2年宮本 かい)
- (豊津小5年崎山 ひかり)

## 老年の硬直性 1週間サボれば筋肉も、関節も、頭脳ですらも硬直する

少年の弾力性に比較して、老年の非弾力性はなんとしたことであろうか！！12月の下旬は引越してであった。家中にもものが散らばり、引越し荷物の箱が積み上げられ足の踏み場もない。懸命に働く妻に申しわけがないので、日課のプールは10日間休んだ。少しずつ書きためる「風の便り」の原稿も中断した。森の散歩だけは小犬のカイザーがいるので、気兼ねながら出かけるが、歩く距離を加減したり、ストレッチ体操の時間を遠慮して駆け戻るようにした。

今朝、気がついてみると身体を前に倒す前屈がろくにできなくなっていた。両手がもはや地面につかない。後ろに倒す後屈は足元がふらついてもっとひどい。数カ月をかけて、うしろの風景が見えるまでに身体を柔軟にしてきた甲斐もなく、あつという間に全身が固くなってしまった。ラジオ体操の真似事だけでも身体が重く、ところによっては筋肉が痛くて悲鳴をあげる。毎日50メートル走の真似事をやっていたのだが、息が上がってとても丘を駆け登ることなどできはしない。わずか10日間の練習休止の結果である。引越しの整理と後かたづけで身体は目一杯働かせているが、筋肉や関節を部分的に使うだけでは年をとった身体の手入れにはならな

いのである。身体のあらゆる部分を満遍なく解きほぐして、筋肉も、関節も、足先も、指先も、首も、腰も、手入れを続けられない限り、老年の肉体はあつという間に硬直してしまう。何でもあつという間に吸収して、疲れを知らない少年と比べてなんたる違いであろうか？

身体がそうであれば、頭も、精神も同じであろう。それゆえ、筆者が想定している2007年問題の対策スローガンは「読み書き体操ボランティア」である。荷物の整理を終えたら、一刻も早くプールとカイザーの森の散歩に戻りたい。原稿も毎日机に向かって頭脳を使い続けたい。もちろん、英会話のボランティアは毎週継続する。

来年は「2007年問題」に対する生涯学習の実践的処方論を出版したいのである。心身共に、老年期の硬直化は進行する。あらゆる機能の毎日の手入れが不可欠である。手入れは肉体から脳味噌と精神に及ぶ。熟年は「定年」と「老い」のダブルパンチを食らう。パンチを避け損なえば熟年は一気に老年期の衰弱と死に向かって降下するのである。だからこそ「読み書き体操ボランティア」なのである。引越しはたゆまない心身のストレッチの重要性を思い知らせてくれたのである。

『編集事務局連絡先』 (代表)三浦清一郎：〒811-4177 宗像市桜美台29-2

TEL/FAX 0940-33-5416 E-mail [sdmiura@fj8.so-net.ne.jp](mailto:sdmiura@fj8.so-net.ne.jp)

『風の便りの購読について』 購読料は無料です。ただし、郵送料の御負担をお願いしております。2006年もご継続を希望の方は、『編集事務局連絡先』まで、90円切手12枚、または現金1080円をお送りください。

『オンライン「風の便り」<http://www.anotherway.jp/tayori/>』